大根広畑コミュニティスクール

# 学校運営協議会だより

令和８年８月３１日

## ～大根広畑地区みらいの学び舎づくりに向けて～

### 学校運営協議会の議論から

秦野市では、学校と保護者、地域の皆様との信頼関係をさらに深め、一体となって子どもたちの健全な育成に取り組むことを目的として学校運営協議会を設置しています。大根・広畑地区においても、令和５年から、自治会代表・保護者代表・地域代表・学識経験者・学校長等の皆様に参加いただき、大根広畑コミュニティスクール学校運営協議会を定期的に開催し、学校、地域での子どもたちの様子の共有、今後の事業等についての協議等を行ってきているところです。

### 大根中学校区学校整備懇話会と提言書

さて、８月１５日発行の広報はだのにおいても「『未来の学び舎づくり』に向けた歩み」として特集が組まれておりましたが、大根中学校区においては、市内においても一番早く施設の整備時期を迎えるため、子どもたちによりよい学びの環境を目指し、前述の大根広畑学校運営協議会を母体として、令和６年１０月より「大根中学校区学校整備懇話会」が設立されました。

小学校合同授業の様子

懇話会では、１年間にわたり「保護者部会」等様々な立場の方々の意見を交わし、令和７年９月、懇話会の吉田会長から市長に「大根中学校区小中学校の整備等に係る提言書」が手渡されました。この内容については、これまでもお知らせしてきましたが、主な取り組みとして「３校統合による義務教育学校化」「公共施設との複合化」が示されています。

### 義務教育学校モデル校の成果をより確かなものにするために「施設分離型」で開校

これまで、大根小学校・広畑小学校・大根中学校の３校で、異年齢交流や小中一貫した学力向上等の様々な研究に取り組んできました。その結果、全国的に増えている不登校が中学校区で減少し、今年行われました全国学力学習状況調査でも大根中学校では全国平均を越える結果につながっています。

また、大根小学校と広畑小学校の合同授業では、両校の児童が生き生き活動する様子が見られ、３校の学校長からも施設の完成を待たずに広畑小と大根小を統合し施設分離型の義務教育学校として学校運営をスタートしたいという要望が示されました。

学校運営協議会でも、こうした要望はぜひ叶えたいということで教育委員会会議にて議論いただき、改めて令和１０年４月に義務教育学校としての開校を目指して、保護者地域の皆様にご理解をいただけるよう取組みを進めることとなりました。

## 皆様の疑問や意見に答えて

令和７年度に教育委員会が行った「学校の在り方に関するアンケート」の結果について、同年９月に発行された「大根中学校区小・中学校の整備等に係る提言書」の「資料編」の中に、保護者や地域の皆様のお考え、ご意見などがまとめられています。この度、同提言書の中での保護者や地域の皆様の疑問、ご不安な声に対して協議を行い、回答をまとめましたのでここでお知らせするものです。

なお、すべてに対して十分に回答できないものもありますが、今後、施設分離型での義務教育学校化を目指していく中では、各校での説明の場や、おたより等により丁寧に説明をしてまいります。なにとぞご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## それぞれの学校でのミニ説明集会日程

１　大根小学校（学区内で未就学のお子様をお持ちの保護者も対象）
　９月 18 日（金）15 時から　校長室にて
　９月 25 日（金）15 時から　校長室にて
　９月 29 日（火）15 時から　校長室にて

２　広畑小学校（学区内で未就学のお子様をお持ちの保護者も対象）
　９月 15 日（火）15 時から　校長室にて
　９月 18 日（金）15 時から　校長室にて
　９月 25 日（金）15 時から　校長室にて

３　大根中学校（原則として中学校１年生保護者を対象）
　９月 16 日（水）15 時から　校長室にて
　９月 24 日（木）15 時から　校長室にて
　９月 28 日（月）15 時から　校長室にて

## その他の関係資料につきましては以下 QR コードをご参照ください。

広報はだの特集号（令和8年8月15日）

保護者アンケート結果の概要

みらいの子どもたちと学校（YouTube）

みんなで考える みらいの学校整備指針

大根中学校区小・中学校の整備等に係る提言書

秦野市大根中学校区 学校整備構想

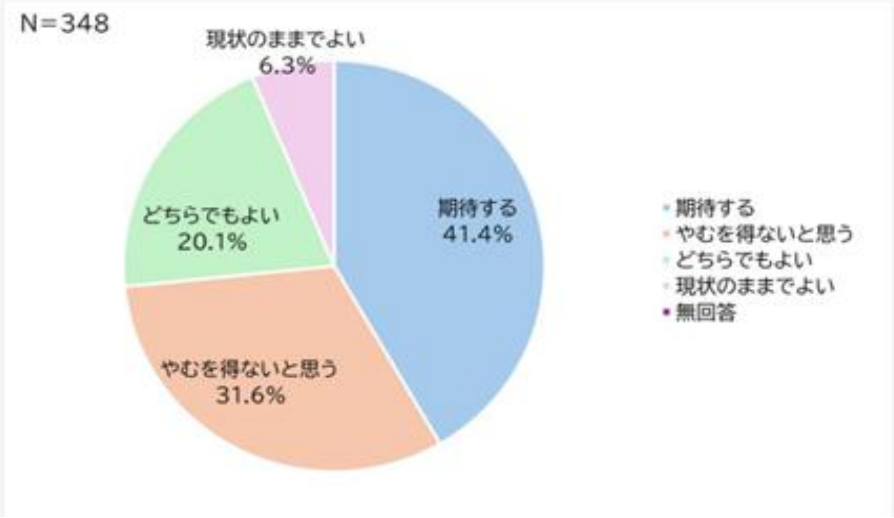
# ～アンケート結果（令和7年9月実施再掲）～

## ３）義務教育学校の整備に対する期待の有無

問５：大根中学校区学校整備懇話会では、2030 年代前半（今から９年後）までを目安に、広畑小学校・大根小学校・大根中学校の３校を一体的に整備し、義務教育学校とすることに期待する方向性が示されていますが、あなたのご意見を聞かせてください。（単一回答）

○「期待する」が 41.4%と最多で、「やむを得ないと思う」も 31.6%を占め、大半の回答者が義務教育学校の整備に肯定的な意見を持っていると言えます。

○「現状のままでよい」は 6.3%に留まりました。

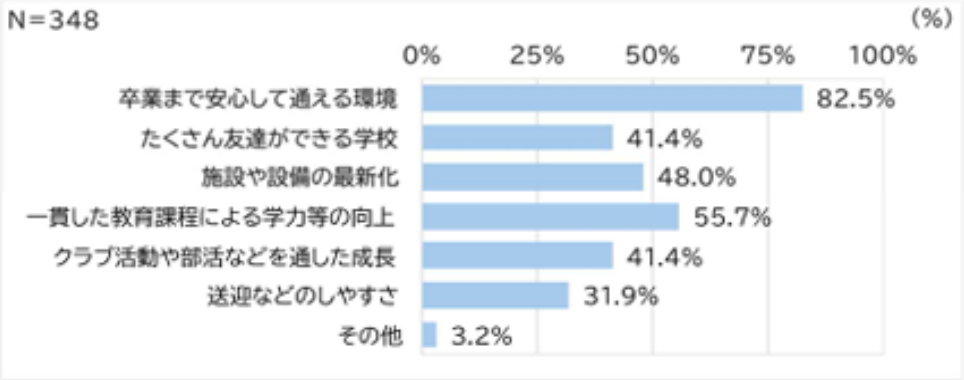



## ５）新たな学校に期待すること

問７：新たな学校に期待することは何ですか。（複数回答）

○「卒業まで安心して通える環境」が 82.5%と最も多くを占めました。

○「一貫した教育課程による学力等の向上」が 55.7%と過半数を占めたほか、「施設や設備の最新化」も 48.0%と約半数を占めました。



# ～令和7年9月実施のアンケート自由記述への回答～

1　義務教育学校に望むこと等について

・　不登校や発達に隔たりがある子なども安心して通える、能力によって細分化された教育。先生がより楽しく働きやすい環境。

→　多様な学びのニーズに対応し、子ども一人一人が自分らしく学べる環境づくりが重要であると考えています。**個に応じた支援の充実や、教職員が力を発揮できる環境づくりについて準備**を進めているところです。

・　学校に行きにくい子でも通いやすい個室（配慮して配置されたもの）があったり、カウンセラーさんが常駐していてほしいです。

→　様々な事情を抱える子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりや相談体制の充実は重要であると考えています。**義務教育学校制度導入により、スクールカウンセラーの活用も進み相談体制の充実につながる**ものと期待しています。

・　教職員の継続的な見守り。

→　子どもたちの小さな変化に気付き、**小中一貫して継続的に支援できる体制づくり**を目指して準備を進めています。

・　施設や設備投資よりも、教師の方々を十分に配置し、負担を軽減して欲しい、子どもひとりひとりに目が行き届くよう、そして学校が楽しい、家でゲームスマホするよりも違う楽しさがあると思える学校を作り上げて欲しい。

→　施設整備だけでなく、子どもたちと教職員が豊かに関わることのできる環境づくりが重要であると考えています。上記でも述べましたとおり、**この制度導入の効果として教職員が子どもと向き合う時間がしっかりと確保されること**が期待されます。特に**小学校での教科担任制の導入に向けて教職員や接続コーディネーター等の配置により学力向上や不登校の減少などの成果やいじめの未然防止等の効果が高まる**ものと考えています。そうした人的な支援体制や教育活動の充実を含め、子どもたちが「行きたい」と思える学校づくりを目指してまいります。

・　児童ホームの連絡もテトルでできる等、連絡のしやすさ。

→　保護者の皆様と学校・児童ホームとの情報共有を円滑にすることは、安心した学校生活につながります。引き続きご意見をいただきながらよりよい方法を検討してまいります。

・　子どもたちが行きたくなるような学校と、先生方の負担を軽減できること。

→　子どもたちが安心して楽しく通える学校づくりと、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保できる環境づくりの両立を目指してまいります。**この制度導入の効果として教職員が子どもと向き合う時間がしっかりと確保されるということが期待されます。特に小学校での教科担任制の導入に向けて教職員や接続コーディネーター等の配置により学力向上や不登校の減少などの成果やいじめの未然防止等の効果が高まる**ものと考えています。

・　セキュリティ、通学のしやすさ、AI を活用した個別フォロー。

→　**安全・安心な学校環境の確保や、ICT を活用した個別最適な学びの充実は重要な視点**であると考えています。新しい時代に対応した教育環境づくりを検討してまいります。

・　学校という枠にとらわれない施設、生きる力を身に付けられる環境。

→　本市では、「学校」ではなく「学び舎」という表現を使っており、これはご指摘のとおり、**学校の枠にとらわれない地域の拠点も目指す**ものです。これからの学校には、知識や技能だけでなく、社会の中で主体的に生きる力を育む場としての役割が求められていると考えています。地域とのつながりや様々な学びの機会を生かし、子どもたちの可能性を広げる学び舎づくりを進めてまいります。

・　白黒ではなくグレーが居ても許される場所。

→　本市では「学校」ではなく「**学び舎」という表現**を使っており、一人一人の個性や違いを認め、安心して自分らしく過ごせる**新たな子どもたちの居場所づくりを目指す意図が込められています**。多様な価値観や学び方を尊重し、すべての子どもたちが居場所を感じられる環境づくりに努めてまいります。

・　大根小学校と中学校を一体化して中学校でも給食の提供をして欲しいです。

→　中学校給食については、本市でも令和３年から始まっております。義務教育学校の検討とあわせて、実施方法や施設整備、運営面などを含めて、令和10年４月から小学校と一体的に提供できるよう準備を進めています。

・　モデル校として恥ずかしくない前例を作り、この学校に通いたいとの理由で他地区や他市からファミリー層が転居してくるレベルの成功例を目指してほしい。

・　今まで見たことがないような、革新的な学校になることを期待する。

・　形を作って終わりではないので、変化に対応しやすい設備づくりをしていただけると、社会の在り方に対応した学校を維持していけると期待しています。抽象的で難しくなりましたが、特にシステムは変化が早いので、アップデート(ソフトでもハードでも)できるという視点で選ぶと対応しやすいと思います。

・　出来ない、やれない、やらない、見守る必要性のある子供ばかりに配慮するだけの学校になってほしくないです。本当はもっとやりたい、やってみようとしている子供も中には、いることを忘れてほしくないなと思います。

→　ご指摘のとおり今回の新たな学び舎づくりは、**移住定住施策にもつながるよう地域の皆様に誇りを持っていただける学び舎を目指し**ています。**先進事例では制度導入により、人口増加につながった事例**もあります。秦野だけでなく、**全国にも誇れる特色ある学校づくりを目指す**とともに、**施設整備に当たっては将来の教育環境や社会の変化に対応できる柔軟な施設整備**を目指してまいります。

・　子供が無事に広畑小学校を卒業して欲しい。今の小中学校の保護者は、９年後は関係ないので、今赤ちゃんを育てている親に意見を聞いた方がいい。

→　現在在籍している児童生徒への影響に十分配慮するとともに、将来の利用者となる世代のご意見についても懇話会では耳を傾けてきました。市とも連携しながら、市内全域の民間園にも情報提供を進めています。

・　不登校の親目線から失礼します。学校に行きづらさを感じている子が増えている。小学校から中学校と環境が変わることでまた登校してみようと思う子が

いたかもしれない。９年間同じ学校となるとそうもいかなくなる懸念が少し。一度学校から足が遠退いてしまった子たちの居場所、サポートなど、クラスに戻す以外の選択肢も与えられるよう、柔軟な考えで新しい学校が作られるといいなと思います。(今も別室、保健室、放課後登校、E-Lab 等取組みはあると思いますが)取り残されるお子さん、親御さんがいないように…期待しています。

・　不登校児やその保護者が孤独になったり、取り残されたりしないような仕組み。９年義務教育で通いやすくなる子がいる一方、不登校が長期化する子が出る恐れがある気もするので、サポート体制や具体的に安心出来る方針を掲げてほしい。

→　不登校支援や多様な学びの場の確保は、重要な課題と認識しています。小中の教育課程が一体となっても、一人ひとりに応じた支援体制の充実について、変わらず検討してまいります。また**制度導入に伴い職員体制の強化**も図られますので、安心して相談できる体制や、多様な支援の充実について検討を進めてまいります。

・　いじめや不登校のない、子ども、教員、保護者、地域が一体となった楽しく学べる学校になってほしいです。

・　障がい、不登校、国籍、その他心配事やフォローが必要な人にも安心して通える学校になるといいと思う。

→　現在本市では、末広小学校において文部科学省の指定を受けたインクルーシブな学校運営モデルの研究を続けています。義務教育学校の制度導入によっては、**人的な支援も期待されますので、先行研究の成果も生かしながら、誰もが安心して学べるインクルーシブな学校づくり**を目指し、子ども・保護者・教職員・地域が連携した安心できる学校づくりを進めてまいります。

・　友達との関係がうまくいかず、敢えて環境を変えたいというお子さんが秦野駅の方の中学校に入学しました。この義務教育学校の方針だと、この様な子どもには、酷な制度では、と思う。それとも、少数派には目を向けない？小１と中３が休み時間に校庭を一緒に使うという状況があるとしたら、危ないかなと思う。

→　今後、施設が一体的に整備された場合は、低・中・高学年ごとにゾーン（居場所）を分けるゾーニングを検討し、発達段階に応じた適切な活動スペースを確保しつつ、安全には最大限の配慮を行います。義務教育において

は、どのような子どもでも等しく教育が受けられるよう運営されています。**義務教育学校制度が導入されても、一人一人の個性が尊重されるよう丁寧に支援**してまいります。

・　高学年頃からは自分で教科書から学び、分からないところを先生に聞く、下の学年向けに授業をするなど、それぞれの学力に合わせた学習ができるようにしてほしい。学年を気にせず得意な科目は上の学年で、苦手な科目は下の学年で勉強できるような授業の仕組みを作ってほしい。宿題や成績表をなくすことも検討してほしい。

・　東海大学の留学生などにも協力してもらって、英語だけでなく、様々な言語に触れ、異文化交流や国際問題への関心を高めたり、秦野市内で生活している外国にルーツを持つ人達とお互いの文化や背景を理解し合えるようになってほしい。

・　水泳教室を大根公園のプールで行ったように、他の体育や音楽も学校以外の民間の支援を受けた授業にできないか。

・　金融教育の一つとして、市内の金融機関から講師を呼んで、大人も子どももお金や経済について学ぶと同時に、市内の商店で子ども通貨を導入し、何かの活動をするとその通貨を報酬として受け取れ、市内のお店や大根公園のプールなどで使えるなど実践を通じてお金の仕組みを早くから学べるようにしてほしい。さらに、起業や社会貢献についても学べる機会を作ってやってほしい。

・　高校生や大人になっても、心や身体について相談できる環境をより身近に整え、健康を守るための施設にしてほしい。

→　子どもたちのよりよい学びや育ちについての貴重なご意見をありがとうございます。**学力の向上については今回の本制度導入の大きなねらい**でもあります。また、大根小、広畑小、大根中学校では児童生徒の学習の定着度や学習意欲の基盤となる自己肯定感等の非認知能力の伸びを経年変化で見て分析・評価する「学びの基盤プロジェクト」に小中一貫して取り組んでおり、**この度大根中学校では全国学力学習状況調査において学力の向上が成果が確認**されました。さらに、義務教育学校化を待たずに３校で共通の学校教育目標のもと、連携して子どもたちのよりよい学びについての研究を進めており、**市とも連携しながら、民間企業等と連携した金融教育や租税教育、瓜生野盆踊りの学習**も進めてきました。また大根地区の学校運営協議会には、東海大学からも委員に加わっていただいており、引き続き、東海大学や秦野高

校、近隣の施設や教育資源にご支援いただき、引き続き子どもたちの「生きる力」を育んでまいります。

## 2　教育課程、義務教育学校制度等について

・　子どもに発達障がいがあり、特に環境の変化が苦手なので、小学校と中学校が一体となることで、心理的な負担が少なく中学校に馴染めると思ったためです。中学生になると勉強が一気に難しくなるため、一貫した教育課程の方が望ましいと思います。新しい学びの形ができていったらいい。

→　義務教育学校では、校長が一人になります。ご指摘のとおり、特に支援が必要な児童生徒には　環境や指導体制が**一人の校長のもと一つの組織で運営**されるため、**先進事例でも心理的な負担が少なく中学校に馴染める環境構成の事例が報告**されています。

・　職員間で、しっかりと子どもの情報や支援などの情報が共有されることを願っている。そして、できる・できないだけではない、評価以外に、子ども一人一人の内面を見てほしい。

→　今回の制度導入には、児童生徒一人一人の良さを義務教育９年間の中で小学校と中学校の教職員間で、**これまで以上にしっかり情報共有を行うことも大きなねらい**としています。子どもの思いや成長の過程にも寄り添い、引き続き一人一人を大切にした教育を進めてまいります。

・　先生や子供に余裕のある教育内容を望む。

→　**今回の制度導入には、子どもたちが安心して学び、教職員もゆとりをもって子どもに向き合える環境づくりも目指した**ものです。制度の導入によって子どもと向かい合う教育内容や学校運営の在り方を小中が同じ視点で工夫し、充実した学びの場となるよう努めてまいります。

・　義務教育ではありますが、学年や年齢を取っ払った縦割りの日常もあると良いです。

→　**義務教育学校制度の特色の一つとなる異学年交流は、ご意見いただきましたとおり大きな教育的効果が期待**できると判断しています。子どもたちの発達段階に配慮しながら、日常的な交流の機会等について検討してまいります。

・　９年間の義務教育学校になった場合、通わせたいかと思うかは、若干の不安がある（中学受験の選択肢もある中で、変わらない環境のままでいいのか、など考える。かなり魅力的な教育方針がないと難しいと感じる）。

→　義務教育学校では、単に９年間同じ環境で過ごすのではなく、９年間を見通した教育課程の編成や、小中学校の教職員の連携を生かしたきめ細かな指導など、これまで以上に子ども一人一人の成長を支える教育活動を目指しています。**現在進めている特色ある教育活動を分かりやすくお示しし、子どもたちや保護者の皆様に魅力を感じていただける学校づくり**を進めてまいります。

・　一貫校になると担任の先生が教える形から中学校と同じように勉強も教科担当の先生に変わったりするのでしょうか？中学生になるためには慣れておくことも必要なことかもしれません。でも担任の先生が見ていてくださっても、クラスでは色々なことがあると思うのに大丈夫だろうかと思ってしまいます。子供たちの様子を見れるよう、何かあった時に少しでも早く気づけるような工夫をして欲しいと思います。それと中学校は部活などで鶴巻中学校を選ぶことや、私立の中学校を受験する事もできますが一貫校になった場合はどうなるのか…などこれから色々な意見が出てくると思いますが丁寧に回答頂けるといいなと思います。

→　**教科担任制については、既に子どもの発達段階等に応じた指導体制を導入**しています。しかし**全ての教科で実施するのではなく、高学年を中心に教科の特性に応じた対応**となっています。また、担任をはじめ教職員が小中一貫して子どもたちの様子を丁寧に見守り、小さな変化にも早期に気づき、必要な支援につなげられる体制づくりに努めるよう接続コーディネーター（小学校課程と中学校課程を円滑につなぐ目的の専属教員）なども配置していくこととなります。**当面は施設分離型ですので現在の前期課程６年、後期課程３年を維持しながら、前期課程（小学校）終了後の私学への進学や転校にも柔軟に対応していく予定**です。進路選択に関するご不安やご質問については、１人の校長のもと組織全体で、正確な情報を分かりやすくお伝えし、安心してご判断いただけるよう努めてまいります。

・　小中一貫校に関しては別問題であり、一貫校とするメリットが見えて来ないというのが正直なところです。一貫校にするとずっと変わらない体制というと良く聞こえますが、将来的に高校、大学、社会人、と環境は変わっていくので、変わ

ることに慣れるという意味では区切りがあるという点は良いとも考えられます。一貫校とするのであれば、クラス編成のみならず、授業の形や部活動など放課後の時間の在り方、課外授業なども含め検討する必要があると考えます。

→　環境の変化を経験することの大切さや、区切りがあることの意義についての考え方があることは理解しております。義務教育学校は、単に９年間同じ環境で過ごすことを目的とするものではなく、発達段階に応じた学びの充実や、子ども一人一人の成長を継続的に支えることを目的としています。また、ご指摘いただきました内容につきまして、まず**今回の義務教育学校制度の導入は、ゴールではなく新たな学校づくりのスタートという意識**です。導入にあたっては、学級編成や授業形態、部活動、放課後活動の教育活動などについても、児童生徒及び保護者が不安を抱かないように、**現状のままスタートし、児童生徒が教職員としっかり議論しながら、児童生徒の意見を基に十分検討**し、子どもたちにとってよりよい学びの場となるよう少しずつ検討してまいります。

・　小中学を一緒にしなくても良いかと思う。

・　小学校は小学校で６年で一度区切りをつけるべきだと思う。

→　小学校と中学校それぞれの良さや、節目を大切にする考え方もあるかと思います。**その一方で、子どもたちの発育発達も変わってきており、これまで中学校２年生頃に訪れていた思春期独特の変化も、小学校高学年から出始めています。**こうした子どもたちの変化にも柔軟に対応できるよう、本制度には、９年間を見通した継続的な指導や、一人の校長のもと、一つの教職員組織を編成して、小中学校の教職員が連携して子どもの成長を支えることができる良さがあります。子どもたちにとってさらにより良い学びの環境となるよう、特色を生かした学校づくりを進めてまいります。

## ３．通学距離等について

・　距離の問題や、避難所の確保等の疑問点による不安は多少ある。

・　長時間の登下校は特に夏は地獄ですので、対策を考えなければなりませんね。

・　通学距離の問題。

・　通学が遠くなる子どもが出てくる。少人数の良さ(先生の目が行き届く、アットホーム)が失われてしまう。

・　地域的に通学が不安である。

・　登校の距離を考えると現状のままが良い。

- 学校が遠くなる。
- 小１の通学距離が長すぎる。
- メリットも多いが、通学が遠くなることが心配。
- 合併することで得られるものは多いいと思う反面、やはり下大槻南平の方の子は中学生ならまだいいが、小学生には大変なので、そこは課題だと思う。送迎サービスなども充実させる必要がある。また中学生でも自転車通学を許可してあげるべきだと思う。
- 生徒数、学級数の事を考えると一体化したほうがいいとは思うが、登下校に時間がかかる子も出てくるため。
- 学校まで遠い子達が安全に登下校出来る事。
- 車送迎しやすい広い駐車場を作ってほしいです。行事など色々な時に車で来ないように言われているが、その家庭によって色々な事情があるから普通に車の利用をしていいようにしてほしいです。
- 朝、登校する時は登校班で行くので安心なのですが帰りは、各々がバラバラで帰るので防犯上いつも不安で、このご時世、色々な事件が起きたりするので登下校の時の安全も学校に居る時の安全も時代にあった取り組みをしてほしいです。
- 幼稚園のように送迎バスがあるといいです。
- 送迎用の駐車場を完備してほしい。
- 周辺の道路の整備、駐車場の確保。
- 車送迎がしやすい広い駐車場がほしいです。
- 広畑と合体するならば、遠方登校を考え送迎バスや送迎用の駐車場の拡大を。
- 大根小、中の敷地利用となると、通学の方法を考えていかなければいけないと思います。
- 学校まで遠い子達が安全に登下校出来る事。
- 低学年の子が広畑地区からでも安心して通えるための整備が必要だと思う。例えば、スクールバスなど。
- スクールバスの運行・導入・整備。
- 広畑学区は学校が遠くなるので、スクールバスなどで対応してほしい。
- もし大根小中に新たに義務教育校を作る場合は、広畑小のエリアの子達には送迎バスを検討してほしいです。自宅から大人の足で 50 分近くかかるので徒歩では通えないです。
- スクールバスを利用できれば送迎などの心配もなく安心できると思います。
- 通学に困難な子供が増えるであろうと考えられるのであれば、通学バスの導入

など家族の負担をフォローしてもらえるようなシステムを考えて欲しい。

・　もし通学が遠くなるのであれば送迎バスを出して欲しい。夏が暑いので、長距離を歩かせるのには不安がある。

・　広畑と合体するならば、遠方登校を考え送迎バスや送迎用の駐車場の拡大を。それより、広畑小のように平日や休日の校庭開放など　今の児童の放課後の安全に遊べる居場所も検討するべき。

・　夏は脅威的な暑さが続くので、体育館やプールの設備に配慮していただけると嬉しいです。また、新たな学校に通う際に自宅から長距離となるため、スクールバス利用も検討していただきたいです。

・　将来、さらに広範囲の統合となる可能性がある。現在では考えられないほど遠くから通う児童も出てくると予想します。保護者による自動車による送迎可能であることと、駐車場の整備をぜひ希望します。

→　**通学距離が延びてしまうことは大きな課題と捉えています。**特に昨今の猛暑を鑑み、**保護者による送迎を可とするなど、既に教育委員会とともに新たな通学方法の検討や、川崎市で導入されている低学年児童の早朝預かり等アイデアはもとより、学区のあり方を含めた総合的な検討等に着手**しています。引き続き地域・行政等と連携し、通学路の安全改善を継続的な課題として検討し、**開校にあたっては中学生も含めて児童生徒が安心して通学できる環境を整えたい**と考えています。

## 4　人間関係、中１ギャップ等に係るお考え、不安等について

・　９年生にする必要はないと思います。子供の頃からある程度の生活ギャップを経験するのは必要。大人になって耐えられないような人にならないように今のままで小学校→中学校が良いと思います。

・　中１ギャップというのは、環境の変化にならなきゃいけないので、社会人になって対応できない大人になってしまうのではないか不安。

・　そんなにあまったるく考えないでほしい。小学校から中学校へ上がるのは第一段階として経験が必要だとおもう。

→　学校制度導入以来、150 年間小学校６年生を一つの区切りとして小学校教育が運営されてきました。社会や子育て環境の変化に伴い、現在の不登校の増加、いじめ対策、子どもたちの学習意欲の基盤となる自己肯定感の変化等多くの教育課題が見られます。特に中１ギャップと言われる進学時の環境の変化に戸惑う子どもの増加は顕著です。単に**不登校という現象だけでなく、学力の不振等**

**児童生徒一人一人が保護者にも見えにくい集団の中での変化**を、学校は感じています。**当面の間施設分離型となりますので、現行の６・３制の区切りは残したままスタート**し、１人の校長のもと**児童生徒の意見をもとに、教職員が力を合わせて新たな学校づくりをスタート**させたいと考えています。

・　中学生活と高校生活ではさらに環境が変わるのに、幼稚園から小学校の環境の変化の次が９年後の中学校から高校では中１ギャップよりも更に大きなギャップがあると思う。小学校低学年と高学年を分けて環境の変化を小刻みにするのはいいかも知れないが、間隔を広げるのは心配が残る。

→　制度導入にあたっては、**様々な部分で区切りをつけて学校運営を行っていきたい**と考えています。一例ですが、ご指摘のとおり**小学校３年生と小学校４年生では、学習の内容が大きく変化**します。今回のモデル研究では特に算数・数学においてのつまずき（理解不足）が、中学校３年生まで影響することが浮き彫りになっています。こうした研究成果を考え、これまで６年間を一つのまとまりとしてきたものを、４年生で立ち止まり、児童一人一人の学習の定着度を見取るため、小学校４年生から学びの基盤プロジェクトに取り組んできました。**こうした保護者からは見えにくい学びのステップをこれまでの６年間というまとまりではなく、また間隔を広げるのでもなく、義務教育終了段階までの９年間で、どう環境の変化を創出**し、確かな成長につなげていくのか、新たな学び舎づくりを目指しています。

・　私は高専という高校と専門学校の一貫校出身なので 15 歳と 20 歳、専攻科を含めると 22 歳までの学生が同じ学校に通う環境を知っているが、同じ学校の学生で喫煙の可否、飲酒の可否があるなかで先生の目がすべてに届いているわけではなかった。恋愛においても、同じ環境にいるためあまり違和感を感じないが成人が未成年と交際するような場面が多々あった。同じようなことがまだまだ未熟な 10 歳以下に起こるかと思うと不安が大きい。

・　まだまだ善悪が分からない小学生と色々と分かる中学生が同じ敷地に居る事でトラブルが起こると思います。未然に防げるようにした学校作りをしてほしいです。防犯上もですが生徒同士のトラブルの事も考えたら学校内の色々な所に防犯カメラがあった方が良いと思います。

・　小学校入学の６－７歳と中学校卒業の 15 歳では興味や精神的な成長度合いが違いすぎるので、様々な問題が起きると思う。例えば、高校受験を前にしたナー

バスな中学生が小学校低学年の元気な奇声や泣き声にストレスを感じないか。性の意味も分かっていない小学校低学年の子供と中学生が同じ環境で過ごしていて性虐待が起きることを防ぐことができるか。語彙力も力も差が広がることで言葉の暴力や暴力が起きやすくなるのではないか。何かあった時に、小学校低学年と中学生とでは説明能力に差があるので低学年の子への理解が乏しくなるのではないか。

→　幅広い異学年の交流は、上の学年が下の学年に教えることで自己肯定感を高め、下の学年は上の学年に憧れを持つなど、社会性の育成や自発的な学びに寄与することが期待されます。**当面は施設分離型となるので、交流活動は教育課程の一環として教員の指導の下計画的に実施**されるもので、**今後、施設が一体的に整備された場合でも、低・中・高学年ごとにゾーン（居場所）を分けるゾーニングを検討**しています。また、施設の複合化も予定されておりますので、一体型施設完成後は、子どもたちと公民館利用者との動線の工夫はもとより、**防犯カメラ等の活用により死角のない安全安心で新たな学びに対応した学校施設を目指します**。また、発達段階に応じた適切な活動スペースを確保しつつ、異年齢交流を行う際にも安全には最大限の配慮を実施しつつ、教育活動の一環として取り組むものです。

・　大根中を含めた義務教育学校につきましては反対です。中学入学にあたり環境の変化で精神的ストレスになる子供がいる、とのことでしたが、逆に心機一転気持ちを切り替えポジティブに中学入学を迎える子の方が多い気もしますし、いじめや友達関係に悩んでいた子は更に３年間同じ環境で悩み続けることになりますので（私自身、中学入学で新しい友達、新しい環境でとても助けられました）、私個人としましては、今のままで、ストレスになってしまう子供への対応は個別にしていく、という方が良いかなと思いました。

・　小学生から中学生にあがり環境が変わることへの不安がある子どももいれば、逆に、新しい環境に期待している子どももいると思ったため。

・　環境が変わらない事で失われる刺激や機会もあると考えます。また、その環境に適合できない子どもが出てきてしまった場合も再チャレンジが難しいように思います。

・　義務教育学校になる事で、９年間同じような集団で過ごすことになるため、大人も子どもも心理的物理的な逃げ場がなくなる可能性が生じると感じました。特に人間関係のトラブル（学年超えてだったり、教師生徒間であったり保護者同士

など)において小学校・中学校の敷地が別だったからこそ、人間関係のやり直し・再構築の機会にもなるのかなと思います。

→　市内では、一つの小学校から一つの中学校に進学している中学校区が６中学校区あり、９年間学年の子どもたちはほとんど変わらず過ごしますが、クラス替え等で心機一転することとなり、義務教育を終えています。一方で、教員だけが小中で大きく入れ替わることとなり、そこで課題になるのが情報の伝達です。**子どもたちの多様化が進む中で、その重要性は増して**おり、こうした子どもたちの変化に対応するために、**未然防止が最大の対応策として、一つの組織で情報を一括して対応する新たな制度導入を目指したい**と考えています。

・　人数が少なくて、小中学が合併は仕方がないと思うが、中１ギャップのためではないと思う。

・　地域の現状に合わせて中長期的に考えて欲しい。

→　ご指摘のとおり、制度導入のねらいは中１ギャップの解消だけではありません。**「群れて育つ」ということばもあるように、子どもの育ちに集団性の確保は重要**であると考えています。特に学校生活は、多様な児童生徒が集団の中で社会性や協調性など自立するために必要な経験をする場所ともなります。広畑小学校は今年度１年生に入学者が 12 名となり、今後も大きく増加する可能性も決して大きいとはいえず、小規模校の良さと集団性の確保のどちらを優先すべきか、学校としても大きな課題でした。**これまでも研究の一環として、大根小と合同で授業を実施**し、先生方とも協議してきましたが、やはり目の前の子どもたちの様子を見て、**中長期的にも集団性の確保を優先すべきと判断し、早期の制度導入を目指したい**という結論になっています。

・　中１ギャップはなくなってきても、義務教育が終わった後の高校のギャップが今度はあると思う。子供にとって、環境の変化は大変だと思いますが、忍耐力や適応能力が身に付けるチャンスだとも思います。その時によって時代の子育ての方針もあると思うので、お任せします。

・　今まで子どもを通わせていて特に不満や不安、不都合はなかった。

・　高校生になる為の心の準備が出来るかが疑問だが、見守りたいです。

→　**これまで中学進学後に顕著となる思春期独特の変化が小学校高学年でも見られるなど、子どもたちの発育や発達が早期化し、自我の芽生え早まっています。**今回の義務教育学校制度導入においては、９年間の過程の中で、学年を超

えた多様な交流や相談体制の充実、きめ細かな支援を通して、一人一人が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを目指しています。また、この制度導入の効果として、教職員の人数が増えること等により、教職員が子どもと向き合う時間がしっかりと確保されるということが期待されます。特に小学校での教科担任制の導入に向けて教職員や接続コーディネーター等の配置により学力向上や不登校の減少などの成果やいじめの未然防止等の効果が高まるものと考えています。このようにより多くの目で、**発育発達が早期化している児童生徒を見守り、小学校高学年でも中学校の相談体制を構築**することで、人間関係のトラブルや悩み等についても丁寧に対応し、子どもたちにとって相談しやすい、安全で過ごしやすい環境を目指すものです。

5　広畑小学校を卒業させたいという希望について

・　このまま広畑小を卒業させたいし、下の子も上の子同様に入学してずっと通えたらと思いますが、人数が少ないのも分かってくるので仕方ないかなと。

・　９年後では我が子には関係なくなってしまう。我が子には広畑小学校を卒業して欲しい。在校中の合併はやめてほしい。

→　広畑小学校への想いや、このまま卒業・入学させたいというお気持ち、大変ありがとうございます。統合した後も、これまで培われてきた各学校の良さを生かしながら、子どもたちが安心して学校生活を送り、保護者の皆様にも一緒になったよさを感じていただけるような学校づくりに努めてまいります。

6．その他、安全面等について

・　子ども側のメリットが感じられない。
様々な人が出入りできる施設だと不審者がいても気付かれにくいし防犯面や高齢者の交流する施設も併設されるのであれば駐車場での事故等に巻き込まれないかも心配。

・　防犯対策がしっかりされていること。防犯カメラの設置。震災があっても壊れない建物、火災対策。エアコンの完備。コロナや感染症対策のための空気清浄機や窓の開けしめ以外の換気できる環境。

・　新しく作るのであれば、セキュリティー（防犯）の面や防災面など安心して通える学校を作って欲しいです。

・　多世代の交流ができるのは良いことですが、不審者等への対策もやっていただけたら良いなぁと思います。

・　新しく学校を建設する際には外部の人間が簡単に校内に入れないようなセキュリティの強化をお願いしたいです。

→　施設の複合化にあたっては、まず子どもたちの安全を最優先に考え、防犯対策や動線の分離、施設利用者の管理などについて十分に検討してまいります。そのうえで多世代との交流が子どもたちの学びや成長につながるよう、安心して活動できる環境づくりに努めてまいります。

・　情報が少なくいまいちピンと来てない。

・　正直、義務教育学校にはあまり期待を感じられない

→　現時点では具体的な内容が十分にお伝えできておらず、ご不安や分かりにくさにつながっていることにつきましては大変申し訳ありません。今回設置を目指す義務教育学校は一人の校長のもと、一つの教職員組織が置かれ、教育課程を編成・実施するものです。**今回のアンケートへの回答もその一環ですが、今後も学校の特色や教育内容、通学方法などについて、分かりやすく丁寧な情報提供に努めてまいります。**

・　他の学校の子とプールの授業をした時に、子どもが不安を口にしていたため。

→　普段とは異なる環境や他校の児童との関わりに不安を感じる子どもがいることは、大切な視点として受け止めています。**アンケートをいただいてから、新たに合同授業の場を増やしている**ところです。学校環境が変化する際には、子どもたちが安心して新しい人間関係を築けるよう、事前の交流や丁寧な支援を行い、一人一人の気持ちに寄り添った対応に努めてまいります。

・　メリットをあまり感じない為。

・　必要だと思わない。・不安しかないです。

→　現時点では具体的な内容が十分にお伝えできておらず、ご不安や分かりにくさにつながっていることにつきましては大変申し訳ありません。今回設置を目指す義務教育学校は一人の校長のもと、一つの教職員組織が置かれ、教育課程を編成・実施するものです。９年間を見通した教育課程の編成や小中学校の教職員の連携によるきめ細かな支援など、**子どもたちの成長を継続的に支えることで学力の向上や、不登校・いじめ等について、中学校の生徒指導のシステムも参考にしながら、より適切な対応ができる**と考えております。今後、具体的な教育内容や取組について分かりやすくお伝えし、子どもたちにとってより良

い学びの環境となるよう検討してまいります

・　整備する予算が勿体ない。他に当てるべきだ。やるならば広畑小を大根小に統合のみでよい。

→　ご指摘のとおり、多くの予算を必要とする大きなプロジェクトとなります。義務教育学校の整備については、単なる施設整備ではなく、将来にわたって子どもたちがより良い環境で学ぶことができるよう、財政的な負担も市全体に影響が及ばないよう、平準化して予算を組むこととなります。また、タブレットの導入をはじめとして、子どもたちの学びの環境も大きく変化しています。９年間を見通した教育の充実や学校運営の在り方を含めて研究を続けており、**市外からの移住定住施策にも良い効果が表れるよう、子どもたちにとって最適な教育環境づくり**を進めてまいります。